

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：くろかわのぞみ保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：大濱久美子	定員（利用人数）：120名 （利用人数：123名）
所在地：〒215-0036 神奈川県川崎市麻生区はるひ野4-7-1	
TEL：044-819-7481	ホームページ： <a href="https://syunkenbikai.jp/kkn">https://syunkenbikai.jp/kkn</a>
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2012年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 春献美会	
職員数	常勤職員：22名 非常勤職員：15名
専門職員	施設長：1名 主任：1名
	保育士：28名 看護師：1名
	栄養士：1名 調理師：2名
	調理補助：2名 事務：1名
施設・設備の概要	保育室：6室 トイレ：5カ所
	調理室・厨房：1カ所 職員室：1室
	地域交流室：1室 相談室：2室
	絵本コーナー：1カ所 屋上・園庭
	沐浴室：1カ所 ホール：1カ所
職員休憩室：1室 浴室：1室	

③ 理念・基本方針

【保育理念】

乳幼児の最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に推進することを前提とする。  
乳幼児が生涯にわたる人間形成の基礎を培う極めて重要な時期にその生活の大半を過ごすところが保育所である。従って、保育所は家庭や地域社会と連携を図り、多様な価値観を尊重しあつての「親育ち」主体性が育つ物的・人的環境のもとでの「子ども育ち」安心して地域の中で子育てができる「育ち合いの場づくり」を基本理念として運営する。

【保育方針】

- ・あたたかい見守りの中で心地よく過ごせる環境を提供していく
- ・ひとりひとりの良さを伸ばせるように育ちを援助していく
- ・家庭との連携を密にして信頼関係を作り、子育ての楽しさを共感し合う
- ・地域・保育園・家庭が支えあつて子育ての輪を広げていく

④ 施設・事業所の特徴的な取組

青い空と緑に囲まれた、くろかわのぞみ保育園は2012年4月1日に社会福祉法人春献美会としてスタートとしました。最寄りの駅から徒歩3分と閑静な住宅街の中に位置しています。線路沿いの遊歩道では小田急線の電車の行き来も楽しめるため乳児ク

ラスの人気スポットです。近隣には、はるひ野小中学校が隣接しています。緑豊かな「ひだまり公園」や「横峰緑地」等、自然に恵まれたたくさんの散歩コースがあります。自慢の広い園庭にはアスレチックや山登りを楽しめる斜面があり、子どもたちは生き生きと遊んでいます。また大きなリクガメ2匹を飼育しており植物や昆虫、動物等生き物への興味と触れ合い、命の大切さを伝えています。戸外遊びや探索活動を通して自然に触れる機会を保育に活かし安心できる環境の中でのびのびと生活しています。自己肯定感を育て豊かな経験を通して生きる力をつける保育を目指しています。

- ・英語教室（5歳児対象）週1回オーストラリア出身の講師を招きネイティブな発音で、月のテーマに沿った内容でゲームをしたり、歌ったり身体を動かしながら英語を楽しく学んでいます。
- ・体操教室（4.5歳児対象）週1回講師を招き、子どもたちに合わせたカリキュラムに基づき身体の様々な部分の発達を即ず運動を行っています。
- ・行事は日々の暮らしを彩り、保護者の方に子どもの成長を見てもらう機会でもあります。その時々の子どもの育ちを保護者の皆さんと共に喜び合えることを願って様々な行事に取り組んでいます。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和5年6月1日（契約日）～ 令和6年3月1日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2018年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)子どもの主体性を育む取組が行われています

保育士は子どもたちが自発的に活動できるよう工夫しています。前日に子ども同士が、どの公園でどのような遊びをするかを話し合って決めています。さまざまなコーナーが設けられ、子どもたちが自分の興味に応じた遊びを選べるようになっています。また、「子ども会議」と称し、宇宙や星など子どもたちにとって魅力的なテーマを取り上げ、自由に話し合いを行っています。日常の様々な問題に対処するために、例えばケンカの原因や言葉の影響について考える機会が設けられています。絵本に登場する「チクチク言葉」と「フワフワ言葉」を通じて、人の心の動きや言葉の影響を理解しやすくしています。子どもたちには、他人の気持ちを理解し、意見を表明する力を養うための機会が提供されています。子ども会議を通じて発言が難しかった子どもたちも、徐々に自分の意見を述べる自信をつけ、他人の感情を理解する力を身につけるようになっています。保育士たちは、このアプローチが成果を生んでいることを実感しています。

2)就学に向けた手厚い支援をしています

就学を迎える年長児と小学校1年生から6年生までの卒園生が、一同に会する「冒険お楽しみ会」がこの夏、4年ぶりに開催されました。様々なブースに子ども達の興味深い手作りワークショップを用意し、全員参加のリレー、ドッチボール、そして夕飯は子どもたちの人気メニュー、キーマカレーで遊び満載の楽しい夏の1日を過ごしています。例年「冒険お泊り会」を開催していましたが、今年度は「冒険お楽しみ会」とし、注意を払いながら140名近くの子供たちが参加しました。このイベントは就学間近の子どもたちが、同じ保育園の卒園児がいる小学校に安心して入学できることを目的としています。また、懐かしい園での遊びも卒園生にとってはうれしいイベントです。園は「幼保小の架け橋プログラム」に参加し、就学に向けての子どもの育ちについて学んでいます。「冒険お楽しみ会」も年長児の心の不安を払拭させ、希望をもって就学できる取組の一つとして催されました。

### 3)人材育成・確保への取組が期待されます

園では職員の人材確保や育成が課題となっています。人材募集は法人や園のホームページ、ハローワークに掲載しています。現在中堅層の人材が少なく、年齢や経験のバランスがとれた構成を期し園でも人材を確保の工夫を検討していく考えです。実習生の受け入れにより、次世代育成や人材確保だけでなく、職員の育成にもつながり積極的に受け入れたいと考えています。今後の取組が期待されます。

### 4)マニュアルの充実化が期待されます

法人作成のマニュアルはありますが、一定の手順や基準が明確ではなく、全体的に内容が十分とは言えません。業務プロセスの標準化や教育の効率化につなげるためにも園独自のマニュアルを職員と共に作成し、さらに見直しや更新をルール化することが期待されます。

## ⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回の第三者評価は着任2年目での受審となりました。一つ一つの課題に取り組む中で難しく思うところも多々ありましたが、その課題に向き合うことで自分自身の振り返りや学びに繋がったと思います。また全職員で評価項目の話し合いを重ね、疑問に思っていることが明らかになったり、共通認識だと思っていたことが個々の捉え方が違っていたり、様々な視点から日々の保育の振り返りや業務の意義など多くの気づきがありました。より良い保育運営に向かうための共通理解が深まり、方向性の確認ができました。不足部分についての改善はこれから丁寧に取り組むとともに、社会福祉法人や保育園に求められる課題に真摯に向き合っています。ご協力をお寄せいただきました保護者の皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。

## ⑧第三者評価結果

別紙2のとおり